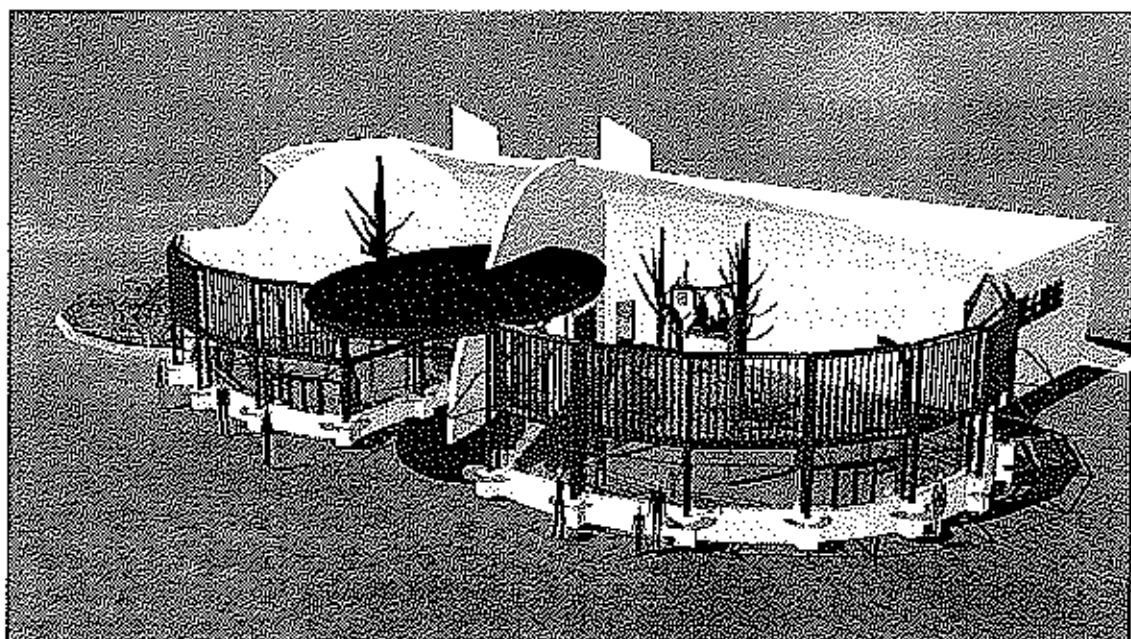


Ⅲ. 「施設整備と動物管理」編



9. 展示・施設の考え方（施設整備と動物管理）

展示方法や施設整備については、長期間にわたって円山動物園のスタンスを表現する重要な要素であることから、以下の方向性にしながら、計画的に取り組む。

○ 円山エリアにおける一体的な空間創出

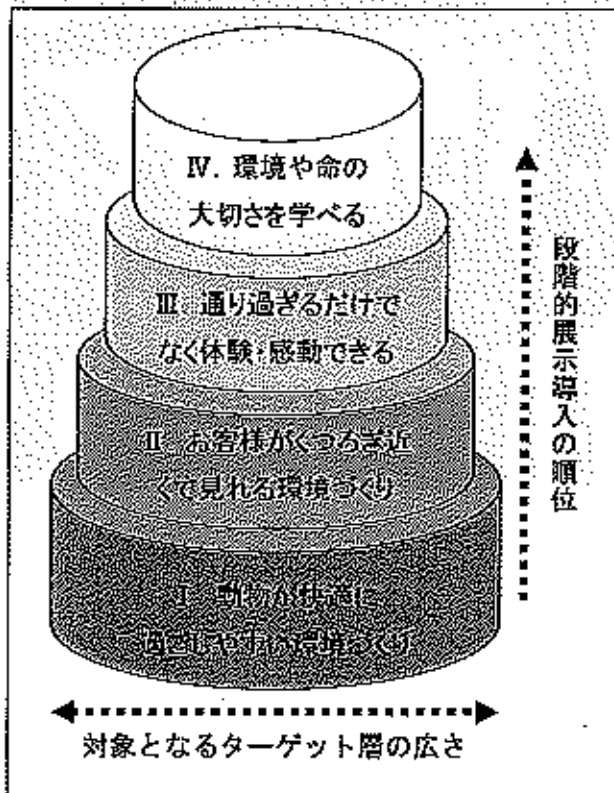
円山動物園を自然豊かな円山エリアの中核施設としてとらえ、周辺にある施設や設備、自然が相互に存在価値を高めあうような相乗効果を目指す。

このことにより、円山動物園が円山エリアの誇りとなるような施設、札幌市民をはじめ北海道民にとって「人と動物と環境をつなぐ絆づくりの場」として象徴的な存在になるよう取り組む。

○ 動物園内における展示のあり方

動物園における動物展示や環境教育展示には、様々な手法や考え方があるが、これらは時代とともに変化し、その評価も変わっていくため、円山動物園では、展示の目的とそこで提供されるべき価値により優先順位を設定し、その時代ごとに必要とされる展示手法を柔軟に取り入れながらも、着実に上位目的にたどり着けるよう、独自の「段階的展示導入方式（円山メソッド）」を実施する。

<段階的展示導入方式（円山メソッド）>



<解説>

この図では、経験の蓄積が上位に進むごとに対象となる客層は絞られてくる一方で、滞在時間は長く、関わりも深くなることを想定しています。

優先順位としては、(1)生き生きした動物を見て楽しいと感じる人を増やすことにより入園者を拡大し、(2)よりくつろぎながら、動物に近づいて見ることで滞在時間(味わい、考える時間)を増やし、(3)様々な体験イベントを通じて感動を与え、より深く動物に関わることを通じて、(4)最終的に環境教育につなげていこうという考えです。

動物が快適でなければ、そこで行われる環境教育は本物とはいえませんし、お客様がゆっくりくつろげない動物園では、時間をかけて考えたり感動を味わったりすることもできないのです。

○ 入園者の利便性の向上

入園者にとって、気軽に訪れることができ、くつろぎながら楽しく過ごせる場所となるため、入園者の声に基づいて、現状における不快感を取り除き、入園者のニーズに合った施設づくりを最優先で行う。

<計画概要>

(1) 段階的展示導入方式（円山メソッド）の確立

環境エンリッチメントや環境教育については多くの動物園で採用されているが、これをつなぐ役割を担うものとして、入園者に配慮した施設づくり（くつろぎスペースの創出）や感動体験型展示（みんなのドキドキ体験等）を、円山動物園の大きな特徴とする。

（18年度～） ※メソッド（method）＝方法・手法のこと

(2) 環境エンリッチメントの推進

円山動物園独自の「段階的展示導入方式（円山メソッド）」の「I. 動物が快適に過ごしやすい環境づくり」は環境エンリッチメントの推進を指す。

「環境エンリッチメント」とは、動物福祉の観点から動物たちの居住生活環境を豊かにすることである。古い飼育施設が多い円山動物園では、動物にとって「せまい」「変化がない」「床がコンクリート」など暮らしやすさの面で課題があったため、今後の新築・改築において環境エンリッチメントを進める。（18年度～）

(3) 園内の総合的なデザイン

これまでの動物園は、動物の展示方法よりも展示動物教や動物舎の拡充整備に重点を置いて増築を繰り返してきたことから、全体のコンセプトやエリアごとのテーマが明確ではなく、園路はとても複雑な動線となっていた。そのため、入園者を迷わせない動線計画とそれに合わせた統一的なサイン計画を策定する必要がある。

また、園内のデザインについては統一的なルール定めるとともに、時代に即した見直しを行うとともに、段階的にバリアフリー化を進めていく。（19年度～）

(4) 園内緑化整備

園内の樹木に関しては、老木化や倒木などにより樹木の更新が必要な場合に、本来、円山原始林にある植物に植え替えを行うことにより、周辺の自然環境と一体化した緑化整備を行い、「円山動物園の森（ピオトープ）」と連携した環境教育を行う。

また、動物舎の整備に合わせて積極的な緑化計画を作成する。（20年度～）

(5) 円山地域整備

動物園を中心とした、円山地域の活性化に向けた整備を行う。

地下鉄から動物園の間は道路、公園内ともに誘導・案内サインが不足していることから、歩行者が迷わないよう判りやすく楽しいサインを充実させる。

円山裏参道については、歩行者の安全を確保するとともに冬季間の除雪を実施するため、歩道の整備（照明含む）とあわせて現在も発生している小動物の輪禍防止のための横断施設を整備する。

円山公園内には、裏参道とほぼ並行して円山川沿いに木道があるが、滑りやすく非常に傷んでいることから補修を行う。

円山川については、自然回復事業として、動物園ピオトープへの導水施設整備や、川の水質を回復させるための事業の実施を検討する。(22年度～)

(6) 北海道・北方圏ゾーン建設

地元北海道の動物にもスポットをあて、私たちにとって身近なところから環境問題を考えるきっかけにするため、「北海道・北方圏ゾーン」を設ける。同時に、観光に訪れる方々にも北海道の自然の素晴らしさを体験してもらえる場にする。エゾシカ、オオカミ、ヒグマ、アザラシなど人と野生動物との関係や歴史を解説するとともに、地元の自然を守ることを啓発し、故郷への愛着を涵養する。また、地球温暖化による北極圏の環境問題を訴えかけ、環境のための行動を呼びかける。(19年度～)

(7) 野性復帰・自然体験ゾーン建設

北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の研究・活動機関と連携しながら円山動物園の繁殖技術で復元し、鷹匠技術により飛行訓練を行い、自然界に放鳥、野生復帰させることに挑戦する。エゾリスやエゾモモンガ、オオムラサキ、オニヤンマ、ニホンザリガニなど身近な動物の繁殖や自然への復元にも取り組んでいく。(19年度～)

(8) 爬虫類・鳥類エリア

高い技術に基づく希少動物（絶滅危惧種）の繁殖を通じて、生物多様性の重要性を表現し、動物たちの生息域で起こっている環境問題を考えるきっかけとする。(21年度～)

(9) アジアゾーン建設

アジアに生息する動物を集中させ、地理や気候、食性の違いなどアジアの環境の多様性ととも、希少種の保存や生息域の保全の大切さを伝える。(21年度～)

(10) アフリカゾーン建設

アフリカに生息する動物を集中させ、動物たちの共存や食物連鎖を伝えるとともに、ミニサファリ形式による混合飼育を行う。(24年度以降)

(11) 類人猿・モンキーエリアの整備

ヒト科の動物であるチンパンジーやオランウータンなどの類人猿は、環境エンリッチメントにより多様な行動を引き出し、群れで生活する中での家族関係や子育て風景、高い知能に基づく遊びなど興味深い行動を見て親しみを持ってもらおうと同時に、一方で森林伐採や開発などにより絶滅の危機にある状況を伝え、人間の行動を考えるきっかけとする。あわせてサルの仲間たちの多様な行動や生態、希少性を伝える。(19年度～)

(12) ふれあいゾーン建設

こども動物園では、動物とのふれあいを通じて「いのちの大切さ」や癒しを伝えるとともに、地元の野性小動物の展示や総合学習の飼育体験受入など環境教育の入口とする。カンガルー館では、有袋類の特異性やスローロリスなど夜行性動物の特徴などを通じ動物の進化と適応を学べるようにする。(19年度)

(13) 動物科学館改修

現在の動物科学館は、展示物や遊具を固定しているため容易に入替等ができず、故障してもそのまま放置されている遊具・展示物があり、その展示内容も陳腐化しているため、固定展示や常設遊具を撤去し、可動式展示等への転換を図る。(24年度以降)

(14) トイレ・授乳スペースの整備

園内には和式のみでの老朽化した木造トイレが2か所あり、授乳室も不足している。また、動物とのふれあいにより、数多くの手洗いスペースが必要とされているため、来園者が快適に利用できるようトイレ・手洗い・授乳スペースを整備する。(19年度～)

(15) 野外ステージ建設

野外ステージはゴールデンウィークを中心にキャラクターショーなどのイベントに利用されているが、施設・設備ともに老朽化しており、利用できるイベントが限られているため、建替えを行う。新ステージは、様々なアトラクションやイベントを行うにぎわいの中心施設とし、イベント等のない時にも来園者がくつろげるスペースとして新設する。(24年度以降)

(16) コンビニエンスストア、カフェ、レストラン、ミュージアムショップの誘致

入園者数及び満足度の向上のため、新たにレストラン、コンビニエンスストア、カフェ、公式グッズ売店を誘致する。(19年度～)

(17) 園内交通の整備

円山動物園は、南北約 700 メートル、東西約 400 メートル、高低差約 40 メートルの傾斜地であり、お年寄りや障がいのある方にとって園内全てを容易に移動し観覧するのは厳しい状況にあるため、園内のリニューアルに合わせて、来園者の利便性を高めるためバリアフリー対応の周遊観覧交通を整備する。(23 年度～)

(18) 環境にやさしい施設への転換

施設そのものも環境教育の教材となるよう「環境にやさしい施設」を目指して、円山動物園における資源やエネルギーの効率的活用を行う。(19 年度～)

(19) エントランス機能の充実

動物がいそうな雰囲気を出し、楽しさや期待感を感じさせる、より魅力あるエントランスにすべく正門・西門の整備を行う。また、新たに南側入園口機能の整備を行い、円山西町住宅街からのアクセスを利便化する。(22 年度～)

(20) 臨時駐車場の確保

円山動物園は近隣に大規模な民間駐車場がないため、繁忙期には最大 3 時間待ちの渋滞を招いている。今後、入園者数 100 万人を達成するにあたり、公共交通の利用促進のほか、ピーク時の駐車場対策についても検討を進める。(23 年度～)

(21) 飼育動物の考え方

円山動物園では園内をゾーン・エリアに分け、各ゾーン・エリアにテーマと伝えるべきメッセージを設定する。飼育動物については、コレクション的に種類を増やすのではなく、このテーマとメッセージを担うべき動物の「選択と集中」を行う。このことにより、単に珍しい動物を展示する動物園ではなく、社会的な役割を担いメッセージを伝える「本物の動物園」を目指す。(18 年度～)

なお、アジアゾウの新規導入については、繁殖可能なゾウ舎を建設する必要があり、建設費や人件費を含め多額な経費がかかることから、市民議論を行い導入の可否を検討していく。(19 年度～)

項目名	役割	行動指針	実施時期
段階的展示導入方式(円山メソッド)の確立	1	1	18年度

概要

○段階的展示導入方式とは

動物園における動物展示や環境教育展示には、様々な手法や考え方があるが、これらは時代とともに変化し、その評価も変わるものである。

円山動物園では、展示の目的とそこで提供されるべき価値により優先順序を設定し、その時代ごとに必要とされる展示手法を柔軟に取り入れながらも、着実に上位目的にたどり着けるよう、独自の「段階的展示導入方式(円山メソッド)」を実施する。

これは今後の施設整備の基本的な考えとなるものであり、次のような段階で実施する。

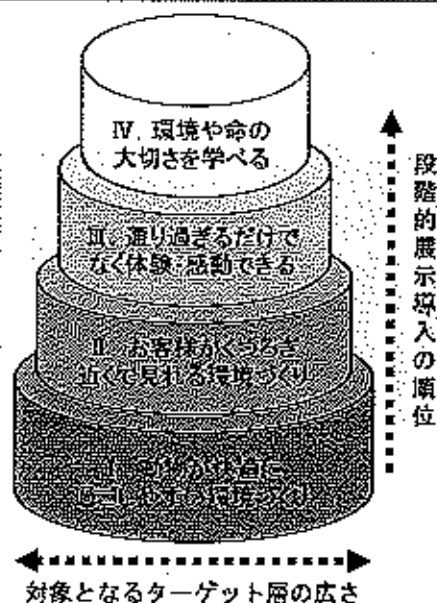
- I. 動物が快適に過ごしやすい環境づくり
- II. お客様がくつろぎ近くで見れる環境づくり
- III. 通り過ぎるだけでなく体験・感動できる
- IV. 環境や命の大切さを学べる

Iの環境エンリッチメントやIVの環境教育については多くの動物園で採用されているが、これをつなぐ役割を担うものとして、IIの来園者に配慮した施設づくり(くつろぎスペースの創出)やIIIの感動体験型動物園(みんなのドキドキ体験等)は、円山動物園の大きな特徴といえる。

スケジュール

2007年(平成19年)3月 基本構想の中で「円山メソッド」を規定
 2007年度(平成19年度)～ 動物舎における展示、動物舎の設計に適用

参考図表等



＜円山メソッド解説＞

この図では、経験の蓄積が上位に進むごとに対象となる客層は絞られてくる一方で、滞在時間は長く、関わりも深くなることを想定しています。

優先順位としては、(1)生き生きした動物を見て楽しいと感じる人を増やすことにより入園者を拡大し、(2)よりくつろぎながら、動物に近づいて見ることによって滞在時間(味わい、考える時間)を増やし、(3)様々な体験イベントを通じて感動を与え、より深く動物に関わることを通じて、(4)最終的に環境教育につなげていこうという考えです。

動物が快適でなければ、そこで行われる環境教育は本物とはいえませんし、お客様がゆっくりくつろげない動物園では、時間をかけて考えたり感動を味わったりすることもできないのです。(基本構想本文より抜粋)

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境エンリッチメントの推進	-	-	18年度

概要

円山動物園独自の「段階的展示導入方式(円山メソッド)」の「I. 動物が快適に過ごしやすい環境づくり」は環境エンリッチメントの推進を指す。

「環境エンリッチメント」とは、動物福祉の観点から動物たちの居住生活環境を豊かにすることである。古い飼育施設が多い円山動物園では、動物にとって「せまい」「変化がない」「床がコンクリート」など暮らしやすさの面で課題があったため、今後の新築・改築においては、以下の観点で環境エンリッチメントを進める。

＜環境エンリッチメントのポイント＞

- ・可能な限り本来の生息環境に近い生活様式を再現する
- ・床をコンクリートから土へ
- ・草や木を生やして自然に近づける
- ・動物たちが退屈しないようエサを隠したり遊び道具を与える
- ・群れで生活する動物はペア以上で群れ飼いする
- ・観覧ストレスを軽減するため隠れられるスポットを設ける

スケジュール

施設の新設・改修に伴い順次実施

○ニホンザル

2006年度(平成18年度) サル山改修時にエサを探しながら過ごせる給餌スペースを設置(2006年度エンリッチメント大賞受賞)

○オランウータン

エサを1日数回に分けて与える、麻袋に隠す、木の枝でペットボトル内の蜂蜜をとらせる などオランウータンを退屈させない取り組みを実施(2003年度エンリッチメント大賞受賞)

2007年度(平成19年度) 類人猿館改修時に床を土に変更しペア飼育を開始

○は虫類

給餌のコントロールと飼育環境整備の徹底により国内初のカンボジアモエギハコガメ、屋内施設では世界初のヨウスコウワニの繁殖に成功(2007年度エンリッチメント大賞受賞)

参考図表等



頭を使って蜂蜜を取る
行動を引き出す仕掛け

給餌スペースで時間を
かけてエサ探するニホンザル

飼育環境の工夫の結果
日本初の繁殖に成功

※「エンリッチメント大賞」とはNPO法人「市民ZOOネットワーク」が全国の動物園の取り組みから審査・決定している賞のこと。円山動物園はこれまでに3回受賞しています。

項目名	役割	行動指針	実施時期
園内の総合的なデザイン	-	-	19年度

概要

これまでの動物園は、動物の展示方法よりも展示動物数や動物舎の拡充整備に重点を置いて増築を繰り返してきたことから、全体のコンセプトやエリアごとのテーマが明確ではなく、園路はとても複雑な動線となっていた。

そのため、入園者を迷わせない動線計画とそれに合わせた統一的なサイン計画を策定することが必要である。また、園内のデザインについては統一的なルール定めるとともに、時代に即した見直しができるようにする。

なお、園内は南北の高低差が約40メートルもあり、既に多数の動物舎が配置されていることから、短期間において、園内全てのバリアフリー化は困難であるが、メイン園路を中心に、各施設においても可能な限り、段階的にバリアフリー化を進めていく。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

・動物園基本計画の策定において、委託業者だけでなく、札幌市立大学と連携し、統一的なデザイン計画を策定していく。また、デザインのインデックス化を進める。

・平成20年3月竣工予定の北方園施設及び、こども動物園改修工事については、車椅子や高齢者のためのスロープの設置や多目的トイレの設置を行う。

・平成20年度以降 動物舎などの施設の建設・改修に合せて、園路の整備、サイン充実、バリアフリー化等を進める。

参考図表等

●標と泳目をサインデザインに反映させる：

広い空間に点在する動物舎の気象サインには、標記と遊歩道存在標の併用。

また、視覚情報を利用した「フジ」のようなバックボードは

ない園内の目印として機能する。

また、環境保全に向けたメッセージが込められる。



札幌市立大学サイン計画検討資料より抜粋

項目名	役割	行動指針	実施時期
国内緑化整備	2	2	20年度

概要

動物園を含む円山公園は、明治初期の「養樹園」として様々な種類の樹木が植栽され、円山地区の歴史的な遺産となり豊かな景観を形成してきた。これらの樹木の健康診断、保全、管理を実施していきながらも、倒木などにより更新が必要となった際には、円山原始林などの植物を基準にして円山地域本来の植物への植え替えを進めていく。

当面は、現存している樹木の管理を計画的に実施し、動物舎や園路整備が進んだ際には、積極的な緑化計画を作成する。

なお、動物園は多くの市民に利用される場であるため、花壇や植木などの園芸的な植物も活かしつつ、園内の植物環境を充実させていく。

- ・園内樹木の種類や数の調査を行う。
- ・高齢化し衰弱してきた樹木の倒木事故が頻繁に起きているため、樹木の診断と管理更新を行う。
- ・クマ館裏や円山川周辺など園内に現存している自然林の保全をする。
- ・獣舎の改修及び新築時には、全体の緑化計画を念頭において植栽をする。
- ・円山原始林を代表とする周辺の自然環境とのつながりを形成する。
- ・「仮称 円山動物園の森(ビオトープ)」と連携した植物をテーマとする環境教育を実施する。
- ・熱帯植物館解体に伴い、植物を鳥類館や熱帯動物館への移植や鉢植展示を行う。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

8月 円山公園と円山動物園の外周部分の植物調査実施

2008年度(平成20年度)～

「仮称 円山動物園の森(ビオトープ)」整備、国内の植物調査および新獣舎への植栽実施
植物館解体に伴う熱帯系植物の移植

2009年度(平成21年度)～

「仮称 円山動物園の森(ビオトープ)」に苗圃を開設、管理及び植栽実施

参考図表等



産業樹木 (スギ林)



園芸植物と花壇

項目名	役割	行動指針	実施時期
円山地域整備	-	-	22年度

概要


動物園を中心とした、円山地域の活性化のため、下記の整備について検討を行う。

- ・アクセスサインの拡充として、地下鉄から動物園の間のアクセスについて、道路、公園内ともに誘導・案内サインが不足していることから、歩行者が迷わないよう判りやすく楽しいサインを充実させることを検討する。
- ・円山裏参道については、現在も歩道はあるが、途中で切れており、また、歩道幅も狭いことから冬季の除雪が不十分である。そのため、歩行者の安全確保や冬季間の除雪を実施するため、歩道の整備（照明含む）や現在も発生している小動物の輪禍防止のための横断施設の建設を検討する。
- ・円山公園内には、裏参道とほぼ並行して円山川沿いに木道があるが、とても滑りやすく、また非常に傷んでいることから、補修を行うことを検討する。
- ・円山川については、自然回復事業として、動物園ビオトープへの導水施設整備や、川の水質を回復させるための事業の実施を検討する。


スケジュール

2007年度(平成19年度)
 関係部局にて、検討会議の実施(道路・河川・公園所管課など)
 2008年度(平成20年度)
 調査及び基本計画(概要設計)実施予定
 2009年度(平成21年度)以降
 基本・実施設計及び工事実施予定


参考図表等



絵も薄くなっている
(拡大)



狭い歩道の一例



3面の崖岸のため
自然復元が困難
(円山川)

円山公園内の小さく・数も少ない動物園への誘導標識

項目名	役割	行動指針	実施時期
北海道・北方圏ゾーン建設	2	2	19年度

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

地元である札幌、北海道の動物、円山の自然に生息する動物にもスポットをあて、私たちにとって身近なところから環境問題を考えるきっかけにするため、「北海道・北方圏ゾーン」を設ける。同時に、観光に訪れる方々にも北海道の自然の素晴らしさを体験してもらえる場にする。

エゾシカ、オオカミ、ヒグマ、アザラシなど人と野生動物との関係や歴史を解説するとともに、地元の自然を守ることを啓発し、故郷への愛着を涵養する。

また、地球温暖化による北極圏の環境問題を訴えかけ、環境のための行動を呼びかける。

○展示方法の工夫

動物だけでなく入園者にも動物園内で快適にゆったりと過ごしてもらい、動物たちをより近くで見てもらえるよう、入園者本位の施設づくりを実施する。

○飼育展示動物

エゾシカ、オオカミ、アザラシ、ヒグマ、ホッキョクグマなど

スケジュール

2007年度(平成19年度) 旧オオカミ舎解体、旧シカ・トナカイ舎解体、オオカミ・シカ舎新設

2011年度(平成23年度)以降

ヒグマ舎新設

世界の熊館改修

第2ホッキョクグマ舎建設

海獣ペンギン館建設

旧海獣舎解体

参考図表等



新しいエゾシカ・オオカミ舎は、絶滅したエゾオオカミと人間、増えすぎたエゾシカとの関係を考える場として設計。オオカミの走り回る姿を間近で観察できる。

項目名	役割	行動指針	実施時期
野性復帰・自然体験ゾーン建設	2	2	19年度

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の研究・活動機関と連携しながら円山動物園の繁殖技術で復元し、鷹匠技術により飛行訓練を行い、自然界に放鳥、野生復帰させることに挑戦する。

北海道の中でも開発が進んだ札幌市においては特に野生動物の減少が著しい状況にあり、動物園敷地に隣接する円山原始林や円山川、円山公園との連続性の中で、エゾリスやエゾモモンガ、オオムラサキ、オニヤンマ、ニホンザリガニなど身近な動物の繁殖や自然への復元に取り組んでいく。

○展示方法の工夫

自然観察ができるピオトープを設置するとともに、猛禽類の野性復帰のための飛行訓練風景も見学可能な訓練用バードケージを設置。

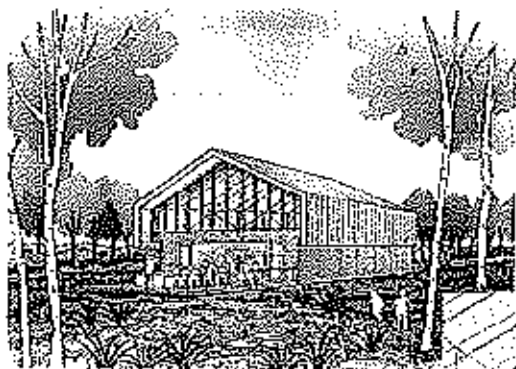
自然への復元作業を市民・企業・大学等他の研究機関と連携して行い、生態系の調和や復元作業自体を市民に普及する。

スケジュール

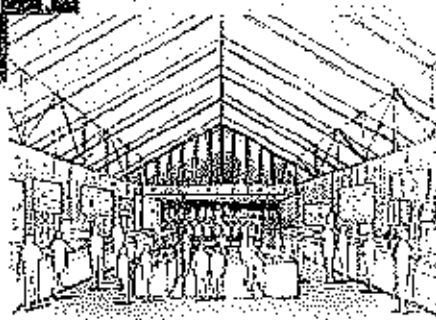
2007年度(平成19年度) 基本計画策定

2008年度(平成20年度) ピオトープ、ガイドセンター、周遊木道建設、野性復帰ゾーン(繁殖用・訓練用ケージ)建設

参考図表等



ガイドセンター(イメージ)



項目名	役割	行動指針	実施時期
爬虫類・鳥類エリア	1	2	21年度

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

高い技術に基づく希少動物(絶滅危惧種)の繁殖を通じて、生物多様性の重要性を表現し、動物たちの生息域で起きている環境問題を考えるきっかけを与える。

○展示方法の工夫

爬虫類の世界最高水準の飼育・繁殖技術を背景に、国内での爬虫類・両生類の繁殖センターとしての役割を担うべく世界最高レベル、国内トップクラスの飼育展示施設を建設する。

○飼育展示動物

は虫類、鳥類

スケジュール

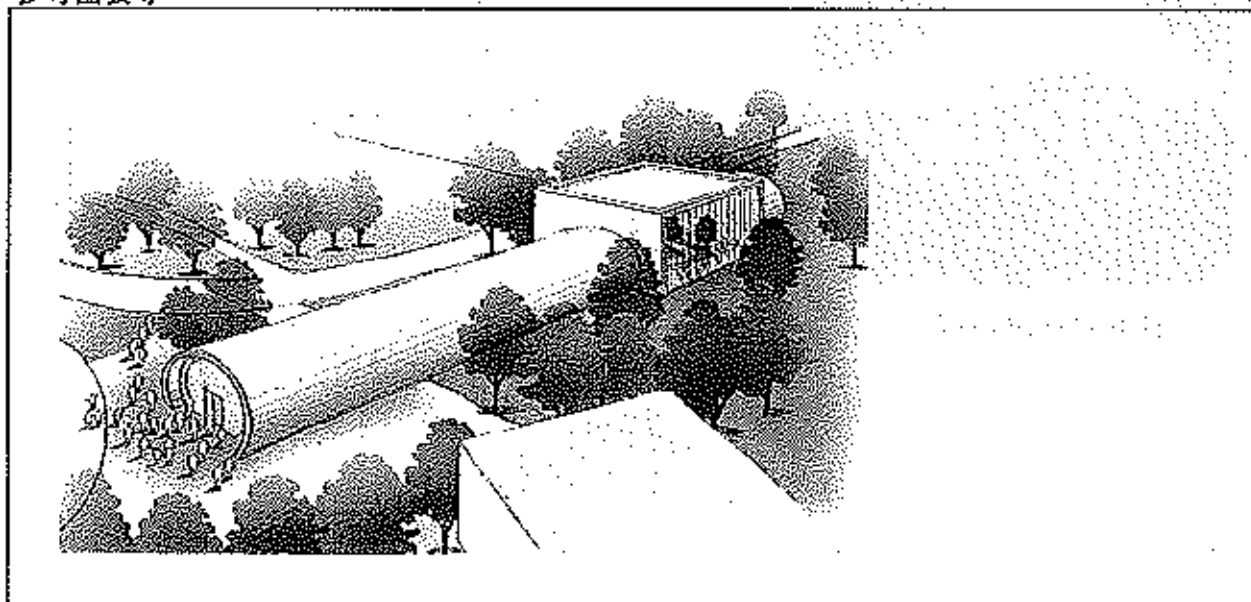
2008年度(平成20年度) 熱帯植物館解体、一部機能を熱帯鳥類館へ移転

2009年度(平成21年度) 新爬虫類館建設・旧爬虫類館解体・昆虫館

2011年度(平成23年度)以降

熱帯鳥類館改修

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
アジアゾーン建設	1	2	21年度

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ
 アジアに生息する動物を集中させ、地理的、気候的及び食性の違いなどアジアの環境の多様性ととも
 に、希少種の保存や生息域の保全の大切さを伝える。

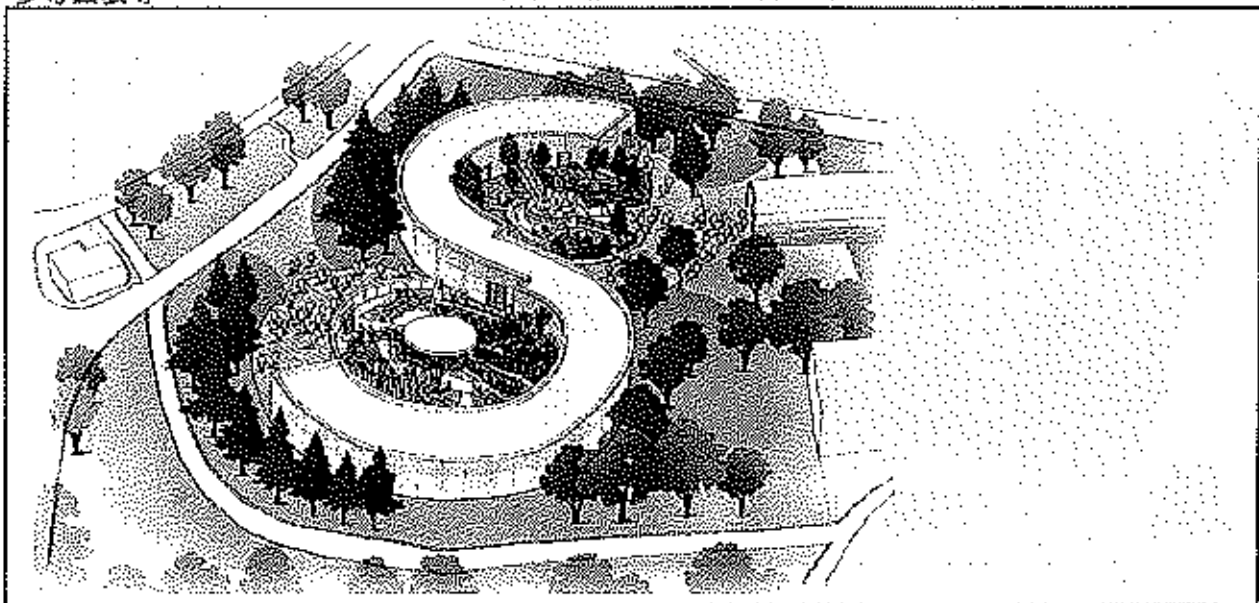
○展示方法の工夫
 飼育環境をより自然に近づけたり動物の多様な行動を引き出す展示方法や動物が快適に過ごしやす
 いエンリッチメントを工夫する。また、来園者がゆっくりとくつろぎながら間近で観察できるようにすると
 もに、看板やハンズオンなどの掲示物を充実させる。

○飼育展示動物
 マレーバク、アムールトラ、ユキヒョウ、レッサーパンダなど

スケジュール

2009年度(平成21年度) 白鳥池・子供の国撤去
 2009～2010年度(平成21～22年度) アジア館建設
 2011年度(平成23年度)以降
 ゾウ舎建設 ※ゾウ導入が決定した場合

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
アフリカゾーン建設	1	2	24以降

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

アフリカに生息する動物を集中させ、動物たちの共存や食物連鎖を伝える。

○展示方法の工夫

飼育環境をより自然に近づけ、キリンやシマウマなどの草食動物は屋外放飼場をミニサファリ形式にし混合飼育を行う。

カバはペリカンと混合飼育し共存の様子を表現する。

○飼育展示

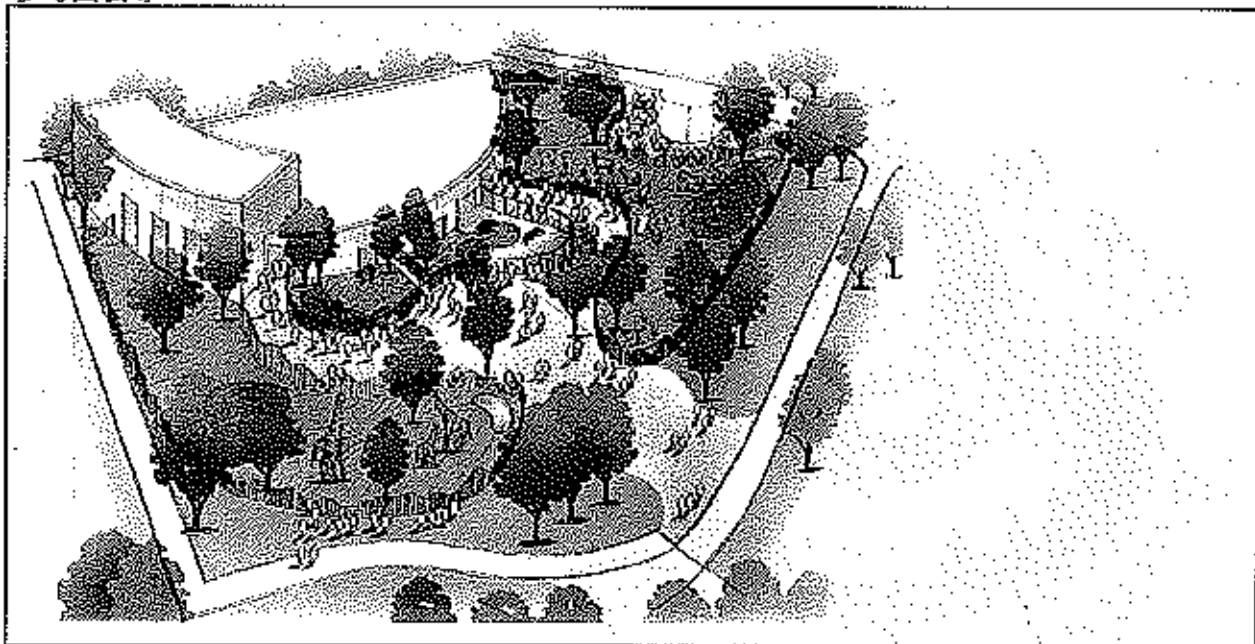
キリン、シマウマ、カバ、ダチョウ、ライオンなど

スケジュール

2009年度(平成21年度) 白鳥池・子供の国撤去

2011年度(平成23年度)以降 アフリカ館建設

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
類人猿・モンキーエリアの整備	1	2	19年度

概要

○展示の目的、伝えたいメッセージ

ヒト科の動物であるチンパンジーやオランウータンなどの類人猿は、環境エンリッチメントにより多様な行動を引き出し、群れで生活する中での家族関係や子育て風景、高い知能に基づく遊びなど興味深い行動を見て親しみを持ってもらうと同時に、一方で森林伐採や開発などにより絶滅の危機にある状況を伝え、人間の行動を考えるきっかけとする。

あわせてサル仲間たちの多様な行動や生態、希少性を伝える。

○展示方法の工夫

飼育環境をより自然に近づけたり、動物の多様な行動を引き出す展示方法や動物が快適に過ごしやすいエンリッチメントを工夫する。

また、来園者がゆっくりとくつろぎながら間近で観察できるようにするとともに、看板やハンズオンなどの掲示物を充実させる。

○飼育展示動物

オランウータン、チンパンジー、ニホンザル、マンドリル、シシオザル、ワオキツネザルなど

スケジュール

2007年度(平成19年度) 類人猿館改修

2011年度(平成23年度)以降

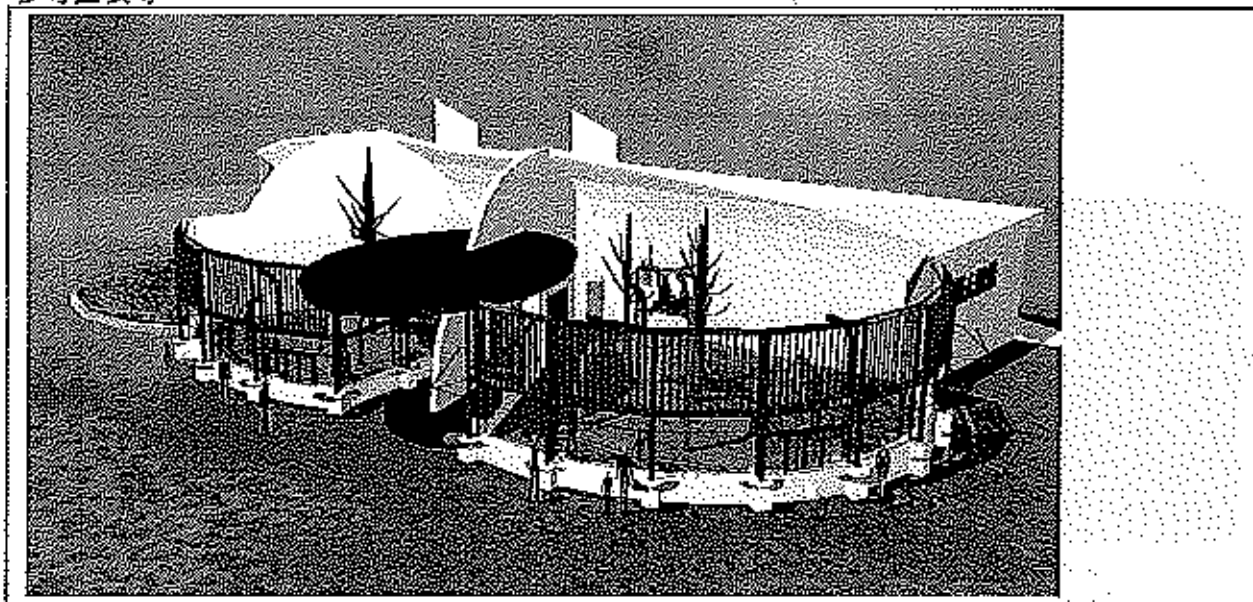
モンキーハウス改修

ゴリラ舎建設 ※ゴリラ導入が決定した場合

チンパンジー館改修

サル山改築

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
ふれあいゾーン建設	1	2	19年度

概要

○展示の目的 伝えたいメッセージ

・こども動物園／動物とのふれあいを通じて「いのちの大切さ」や癒しを伝えるとともに、地元の野性小動物の展示や総合学習の飼育体験受入など環境教育の入口とする。
 ・カンガルー館／カンガルーなど有袋類の特異性やスローロリスなど夜行性動物の特徴など通じ動物の進化と適応を学ぶ。

○展示方法の工夫

「ドサンコの森」：ウオークスルー方式にし森を再現し道内産小型野生動物を放し飼いするとともに、ケージや水槽での展示も実施する。

「ビーバーの森」：ビーバーの巣作りやアライグマをガラス越しに間近に観察でき、プレーリードッグの国内初の巣穴展示を実施する。

「ウサギ・ニワトリ牧場」：ウサギやニワトリと自由にふれあうことのできる広いスペースを設置する。

「カンガルー館」：夜行性動物の行動を活かす展示を行う。

○飼育展示動物

・こども動物園／トカラヤギ、ヒツジ、ニワトリ、モルモット、ビーバー、プレーリードッグ、エゾタヌキ、エゾユキウサギ、エゾリス、エゾシマリス、エゾモモンガ、リスザル

・カンガルー館／ハイロカンガルー、ベネットアカカンガルー、フクロギツネ、モモイロインコ、スローロリス

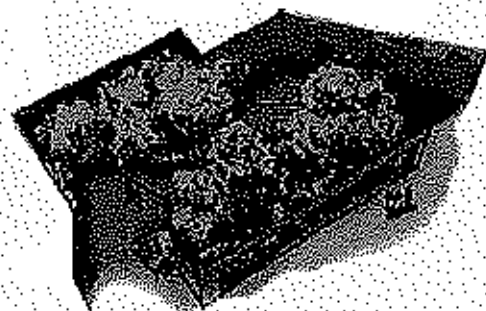
スケジュール

2007年度(平成19年度) こども動物園改修、カンガルー館改修

参考図表等



こども動物園 完成イメージ
ふれあいを通じ命の大切さを学ぶ場



ドサンコの森 完成イメージ
森の中へ観察しに行くような展示

項目名	役割	行動指針	実施時期
動物科学館改修	1	2	24以降

概要

現在の動物科学館は、平成2年度に竣工した建物で竣工の際に展示物や遊具を固定しているため容易に入替等ができず、故障してもそのまま放置されている遊具・展示物があり、その展示内容も陳腐化している。

今後は、固定展示や常設遊具を撤去し、可動式展示等への転換を図る。

なお、当面の展示として平成18年1月に死亡したアジアゾウ「花子」の骨格標本の展示等を進めていく。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

平成20年1月にアジアゾウ「花子」の骨格標本展示のため、一部の固定展示を撤去
今後、新たな展示品の導入に合わせて、暫時、可動式展示に切り替えていく。

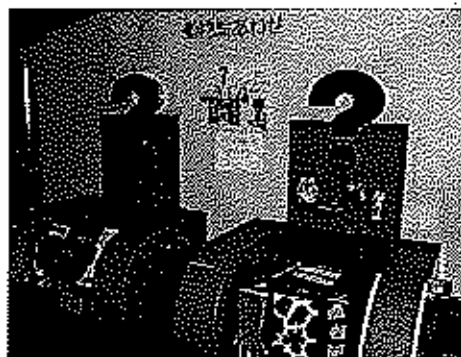
2011年度(平成23年度)以降

動物科学館の大幅な改修

参考図表等



動物科学館 外観
屋上には太陽光発電設備



老朽化し壊れた固定式遊具の
撤去が急務

項目名	役割	行動指針	実施時期
トイレ・授乳スペースの整備	-	-	19年度

概要

動物園では昭和55～56年に建設し、和式大便器のみの老朽化した木造トイレが2か所ある。また、今まで授乳室の積極的な整備をあまりしてこなかったことから、授乳室不足が生じている。更に、動物とのふれあいにより、数多くの手洗いスペースが必要とされている。そのため、来園者が快適に利用できるようトイレ・手洗い・授乳スペースを整備する。なお、既存施設については、清掃の徹底を行い快適な環境を確保する。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

5月 第一レストハウス授乳室を増設(1室→4室)

3月 エゾシカ・オオカミ舎に男女トイレ、多目的トイレ、授乳室3室を設置(旧式トイレ解体)

3月 こども動物園に男女トイレ、多目的トイレ、授乳室2室を設置

2009年度(平成21年度)～

新は虫類館横に多目的トイレ、授乳室を設置(旧式トイレ解体)

2010年度(平成22年度)～

モンキーハウス横にトイレ建設

参考図表等



和式便器の旧式トイレ

項目名	役割	行動指針	実施時期
野外ステージ建設	-	-	24以降

概要

野外ステージは昭和48年に木造で建設され、ゴールデンウィークを中心にキャラクターショーなどのイベントに利用されているが、施設・設備ともに老朽化しており、利用できるイベントが限られている。また、照明等も無く日没が早い時期は使用できないなどの問題も抱えているため、建替えを行う。新ステージは、様々なアトラクションやイベントを行い園内のにぎわいの中心となるとともに、イベントのない時にも来園者がくつろげるスペースとして新設する。

スケジュール

2007～2008年度(平成19～20年度)

現在、使用に耐えないスピーカー、アンプ等の音響装置を更新

2011年度(平成23年度)以降

新野外ステージ建設

参考図表等



現在の野外ステージ

項目名	役割	行動指針	実施時期
コンビニエンスストア、カフェ、レストラン、ミュージアムショップの誘致	-	-	19年度

概要

入園者サービスの一環(アメニティ施設)として既存の食堂・売店が7店舗あるが、景観を損ねる外観や価格・味・接客態度における苦情が多いこと、お土産についても円山動物園らしい特徴がない状況にあるため、今後の入園者数及び満足度の向上のため、新たにレストラン、コンビニエンスストア、カフェ、ミュージアムショップ(公式グッズ販売店)を整備する。
 店舗の新規参入にあたっては、広く提案を公募し、環境への配慮、動物園らしさ、時代ニーズとの適合性、円山動物園への支援策などを考慮し、具体的な導入時期等を判断する。

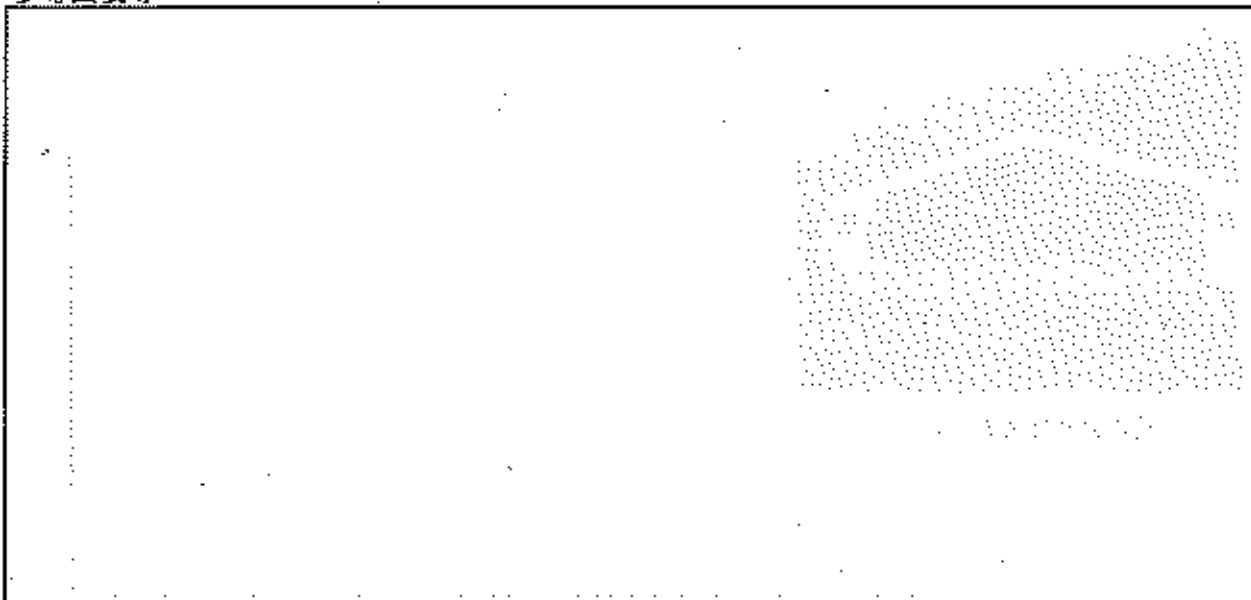
<期待する効果>

- ・食環境の充実によるリピーターの定着(レストラン)
- ・都会における休日の過ごし方の提案(カフェ)
- ・ATMや生活必需品販売による滞在時間の拡大と客単価の向上(コンビニ)
- ・公式グッズ展開によるブランド化とライセンスビジネスの成立(ミュージアムショップ)

スケジュール

2007年(平成19年)10~11月 新規参入店舗の提案募集(第一次)
 2008年(平成20年)4月~ 一部新規店舗オープン

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
園内交通の整備	-	-	23年度

概要

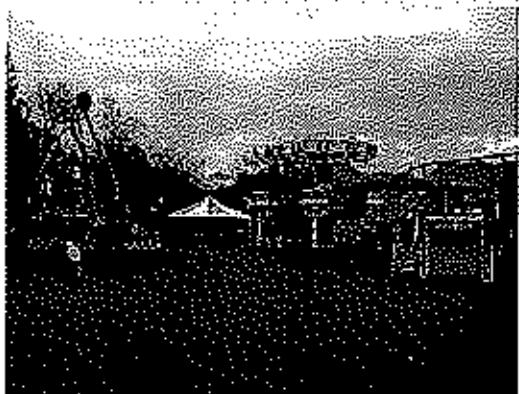
円山動物園は、南北約700メートル、東西約400メートル、高低差約40メートルの傾斜地であるため、お年寄りや障がいがある方が、園内全てを容易に移動し観覧するのは厳しい状況にある。一方、園内の遊具施設(キッドランド)は、老朽化が著しく更新には多額の費用を要することから、これを運営する民間会社も新規投資と存続について否定的である。そのため、園内のリニューアルに合わせて、園内の遊具施設を廃止し、来園者の利便性を高めるためバリアフリー対応の周遊観覧交通へと転換する。

スケジュール

2007年度(平成19年度)

遊具施設の運営会社によるバリアフリー対応周遊観覧交通への転換検討
実現可能な周遊ルート等の検討

参考図表等



子供の国キッドランド
(平成7年に中島公園から移転)



老朽化した遊具
平日は一部しか営業していない

項目名	役割	行動指針	実施時期
環境にやさしい施設への転換	1	1	19年度

概要

施設そのものも環境教育の教材となるよう「環境にやさしい施設」を目指して、円山動物園における資源やエネルギーの効率的活用を行う。

＜具体的な取り組み＞

- ・水や熱の循環設備の導入による省エネ・水資源節約
- ・新エネルギー・自然エネルギーの積極的な活用(次世代エネルギーパーク構想)
- ・国内で排出されるフンやごみの再資源化(次世代エネルギーパーク構想)
- ・環境教育のため園内のごみ分別を家庭ごみ分別方式へ転換、ごみ箱を増設

スケジュール

2007年度(平成19年度)

- ・自然エネルギーについて札幌市の次世代エネルギーパーク構想で導入検討
- ・省エネルギーのための熱源転換や水の循環、再利用化の計画
- ・ごみ分別方式変更の準備としてごみ箱購入、段階的に分別実施

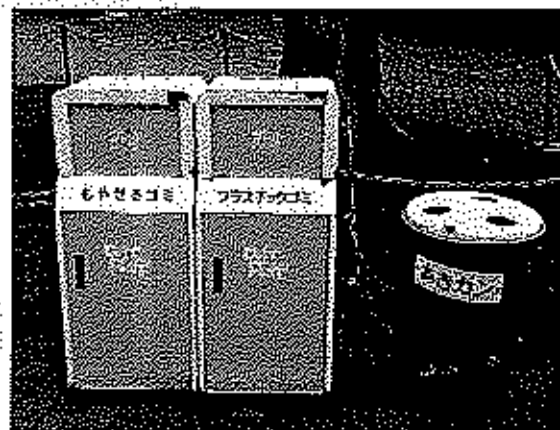
2008年度(平成20年度)以降

- ・次世代エネルギーパーク構想に基づき自然エネルギーの導入方法、時期等を決定
- ・熱源転換・水循環等の設計、ルート・設置位置の決定、排水管整備等

参考図表等



動物科学館に設置している太陽光発電(出力5kw)
(特定非営利活動法人 ひまわり種の会設置・所有)



現在は事業所方式の3分別
(燃やせる・プラスチック・ビンカン)

項目名	役割	行動指針	実施時期
エントランス機能の充実	-	-	22年度

概要

円山動物園のエントランスは、動物がいそうな雰囲気演出したり、楽しさや期待感を感じさせるものが相応しい。

外観を見ただけでも入りたくなるエントランスは、多くの来園者を誘引し動物園の顔としての機能を果たすものである。

よって、現在の門を改修し、より魅力あるエントランスにすべく正門・西門の整備を行う。

また、新たに南側入園口機能の整備(レストラン機能を兼ねる)を行い、円山西町住宅街からのアクセスを利便化する。

これに合わせて業務の効率化のため、券売の自動化を行う。

スケジュール

2007年度(平成19年度)～

券売の自動化検討・券売機の導入

2010年度(平成22年度)

レストラン機能を兼ねた南側入場口を整備

2011年度(平成23年度)以降

2階建て食堂・売店・園内交通駅機能を兼ねた西門(宮の森ゲート)を整備

正門(円山ゲート)を整備

参考図表等



現在の正門



現在の西門

項目名	役割	行動指針	実施時期
臨時駐車場の確保	-	-	23年度

概要

円山動物園は隣接する円山公園駐車場として833台分の駐車場を保有しているが、近隣に大規模な民間駐車場がないため、ゴールデンウィークなど繁忙期には最大3時間待ちの渋滞を招いている。今後、入園者数100万人を達成するにあたっては、公共交通の利用促進はもちろん、ピーク時の駐車場対策についても検討が必要である。

<駐車場対策の具体例>

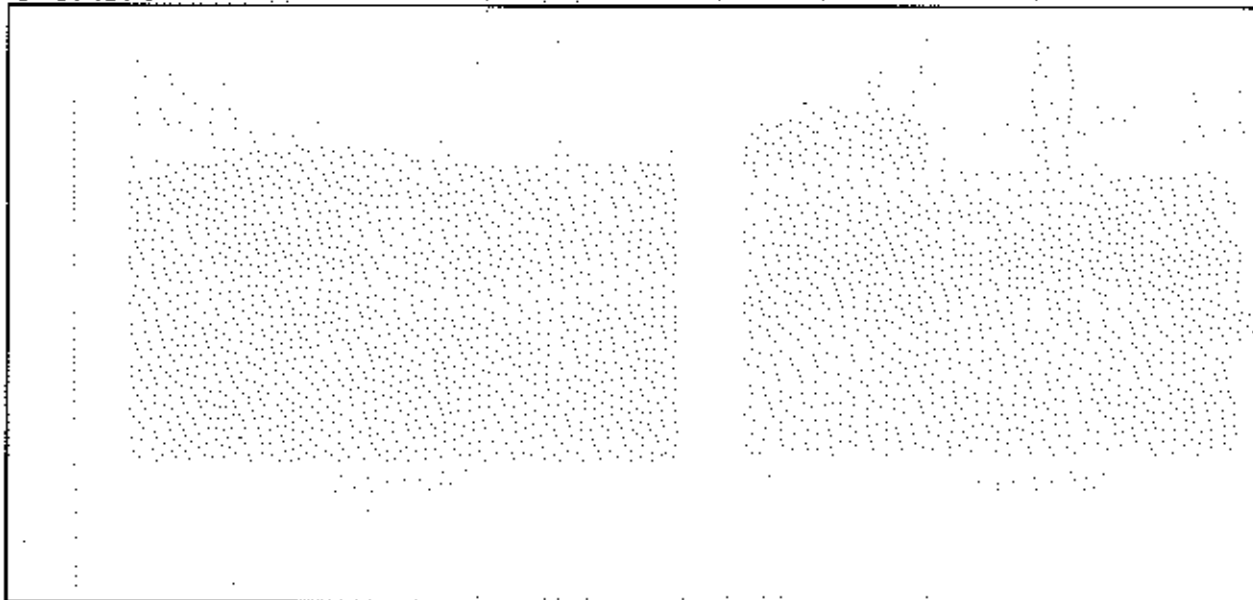
少し離れた場所にある民間駐車場との契約や、近隣公共施設の駐車場と提携し、そこからピストンバスを運行する。

歩道アクセスや遊歩道表示の改善、地下鉄とのセット券の販売により公共交通機関の利用を促進する。

スケジュール

2007年度(平成20年度) 民間駐車場との調整・検討開始

参考図表等



項目名	役割	行動指針	実施時期
飼育動物の考え方	1	2	18年度

概要

円山動物園では園内をゾーン・エリアに分け、各ゾーン・エリアごとにテーマと伝えるべきメッセージを設定する。

飼育動物については、コレクション的に種類を増やすのではなく、このテーマとメッセージを担うべき動物に「選択と集中」を行う。このことにより、単に珍しい動物を展示する動物園ではなく、社会的な役割を担いメッセージを伝える「本物の動物園」を目指す。

＜各ゾーン・動物舎の役割とメッセージ＞

【北海道・北方圏ゾーン】

テーマ：人と自然の関係／メッセージ：「自然と地球環境を守ろう」

【野生復帰・自然体験ゾーン】

テーマ：希少動物の野生復帰／メッセージ：「生態系を守る行動をしよう」

【は虫類・鳥類エリア】

テーマ：高い技術に基づく希少動物の繁殖／メッセージ：「生物多様性の重要性」

【アジアゾーン】

テーマ：アジアの環境の多様性／メッセージ：「希少動物とその生息域を守ろう」

【アフリカゾーン】

テーマ：いのちの共存と食物連鎖／メッセージ：「命はつながっている」

【類人猿・モンキーエリア】

テーマ1：エンリッチメント／メッセージ：「動物の行動の面白さ」

テーマ2：開発に伴う自然破壊／メッセージ：「森を守ろう」

【ふれあいゾーン】

テーマ1：いのちの大切さと環境教育／メッセージ：「いのちに触れよう」

テーマ2：動物の進化と適応／メッセージ：「有袋類・夜行性動物の不思議」

スケジュール

各動物舎において逐次実施

参考図表等

＜アジアゾウの新規導入について＞

2007年1月にアジアゾウ「花子」が60歳で亡くなったため、「ゾウのいない動物園」となったが、今後、新たにゾウを導入するためには、繁殖を目的としてオスとメス複数等の「群れ」で飼うことが国際的なルールとなっている。

そのためには、新たなゾウ舎を建設する費用や、ゾウ担当飼育員の人件費など多額の投資が必要となることから、動物園だけの判断ではなく、市民議論を行ったうえで導入の可否について検討していくこととする。

2008年(平成20年)1月

「アジアゾウ花子を振り返る」開催、骨格標本展示、アンケート実施

2008年(平成20年)2月

「市長とおしゃべりしませんか」学生討論会 テーマ「円山動物園にゾウは必要か？」